【第１学年のまとめ】

１．学年の取組

１年生においては、入学してからの１学期間は、学校生活に慣れるために自分の事で精一杯で、周囲や友達のことを理解することまでは難しい時期である。本学年の児童は、２学期になっても友達と仲良く活動できる児童が多く、友達とのトラブルもあまりなくすごしている。穏やかな性格の児童が多いこともあるので、発言力の大きい児童の言いなりになったり、自分の不利益に気づかず不平等であっても何も言わず意見がぶつからないような場面も目にすることがある。

普段の学校生活を見ても、子供だけの下校時などに、言わないが故のトラブルの経験を多くの児童がしていることがわかった。一方で友達に思い込みで話しが進み、その原因に気付けない児童もみられた。そこで、自己中心的な考えで行動するのではなく、「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行う。」気持ちを育てたいと考えた。また、価値観の多様な社会を主体的に生きる上で正しいと思うことについて勇気をもって主張することは、とても大切であることに気づくことが重要であると考えた。

本時では、道徳的価値へより深く迫るために、2 人組で役割演技をすることを取り入れた。本文のみならず、続きを展開していき、お互いの言い分を言うことで、どちらもいけなかったことがあることに気付かせ、どうしたらよかったかを考えさせる。話し合う場面では、出てきた答えに対して、切り返しや問いかけをして価値へより深く迫れるようにした。「くまくん」と「りすくん」の両方の登場人物の立場に立って、考えを深め自己の生き方を見つめさせた。主人公の気持ちを考えていく過程で、児童は、主体的な判断で行動できるよう、正しいと思った事は行う大切さについて考え、自己の生き方を振り返る事ができるようにした。

学年で１時間の授業について検討を重ね、2 組は、担任が、3 組において授業者による先行授業を行った。授業者は客観的に見たり、主体的に行ったりすることで発問を精査することができ、各クラス担任は児童の授業内の様子や変容を見取ることができた。

２．授業実践について

主題	勇気を出して　内容項目【A-１　善悪の判断、自立、自由と責任】
本時のねらい	よいと思ったことは、恐れないで，勇気をもって行おうとする意欲や態度を養う。
教材名	「ダメ」（出典「新しいどうとく１」東京書籍）
授業者	１年１組　宮﨑　美加

【授業の流れ】

①友達が「してはいけない事をしている」時、どうするかを発表する。[具体的な「下校時に走り出してしまう場面」を提示する。]

②いけなかったのは、「ぼく」と「くまくん」のどちらかを話し合う。

③ぼくがとくまくんに「謝って」と言った時の２人の言葉のやり取りからそれぞれの気持ちを考える。[役割演技]

④二人はどうすればよかったのか考える。

⑤くまくんが謝って仲良くなった場面を読む。[どうすればよかったかの姿が示されている。]

⑥教師の説話を聞く。

⑦本時の授業から、「みんなが笑顔をいっぱいで過ごせるためにはどうしたらいいか。」について自分なりの考えを持つ。

役割演技の活動を取り入れ、本文の会話文以降もそれぞれの気持ちになって会話をさせることで、お互いの気持ちを想像させた。多角的な見方に迫るために、二人の役割を両方体験しながら登場人物の心情を考えさせた。

←③では、「『くまくん、あやまって』のあと二人はどんなことを言うかな？続きもやってみよう。」と声をかけ、双方の気持ちを知り、「お互いの気持ちや正しさを伝え合って、知ることが大切だ。」という事気付かせるため、立場を入れ替えて、役割演技をさせた。

↓⑦で考えを記述し、発表した。

児童のワークシートより

○きょうのじゅぎょうから、みんなが笑顔をいっぱいで過ごせるためにはどうしたらいいのでしょうか。

・ゆうきをもって、おもったことはいったらいいとおもう。
・「ダメ」ってちゃんという。
・ゆうきをだして、きちんという。
・ともだちだから、よくはなす。
・あやまったりするきもちも、じぶんのことばでいえば、すっきりいいきもち。
・どんなひとにも、ゆうきをだしてやめてっていう。
・いやだったら、いやだといってたら、いやなきもちにならない。
・いやなことをつたえる。いやだっていえるようにする。
・じぶんでちゃんとあやまる。ゆうきをだす。
・だめって、じぶんからいう。
・じぶんがわるいとおもったら、あやまる。
・ゆうきをだす
・やなことがあれば、だめっていう。　　など

3．成果と課題

○くまくんに悪意があったかどうかには固執しないでよく、自分を守るために勇気をもって自分の気持ちや正しいことを伝えることに気づかせることが大切。

○初めのくまくんが全面的に悪いところから、りす君の改善点に気づく最後までの子供達の考えの変化がとてもよかった。

○切り返し、役割演技がとても効果的だった。

▼導入から各クラスの反応が全く違い、そのたびに発問を変えたが、児童の生活経験の差やいろいろな発達段階の差など実態で、出だしから流れがずいぶん変わってきていたので、教師の流れの運び方を意識したい。

▼本文の提示の仕方（声わいろや言い回し）で、だれがいけなかったかなどの反応に違いが出ていたので、意図をもって、どの程度感情をこめて読むのか意識していきたい。

▼くまくん、りすくんと視点を変えることが、難しい児童もいて、１年生では多角的多面的に考える発達段階にまだ満たない子もいるので、考慮して展開していきたい。

▼やっていることが最後の書くことに落とし込めないのが１年生の実態なので、学習したことを振り返って、今までの発言とずれて考えを書いてしまう、言葉にうまく表現できない児童がいた。必ずしも記述に落とし込まなくてよいが、体験を積ませることで、振り返りの仕方が身につくので、繰り返していくことも大切。

▼役割演技との両立で話し合いの時間がなくなってしまったので、タイムマネージメントを考えていきたい。